

令和 年度（ 6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全・安心に暮らせるまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	災害・パンデミックに強い社会の形成		課(室)名	都市計画課
	施策	防災・減災対策の充実		電話番号	087-839-2455
	取組方針	災害に強い社会基盤の整備		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	鉄道施設安全対策事業			

【事業全体概要】

事業概要	今後発生が予想される地震や経年劣化による鉄道施設の被害を未然に防止し、災害発生時における緊急応急活動の機能確保や鉄道利用者の安全確保を図るため、緊急輸送路との交差箇所での耐震対策及び老朽化が認められる施設の長寿命化対策の実施に対し、事業主体である鉄道事業者へ事業費の一部を支援する。				
年度概要	鉄道施設総合安全対策事業費補助金（老朽化対策事業） 高欄改良 L = 7 1 m				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	特定鉄道等施設に係る耐震補強に関する省令

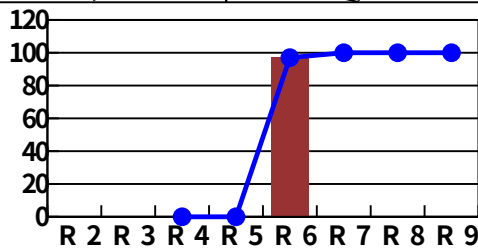
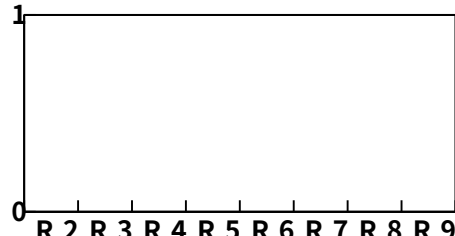
【事業の目的】

対象（何を）	補助対象事業者：鉄道事業者（ＪＲ四国、ことでん） 耐震対策事業：緊急輸送道路と交差する高架橋
意図（どのような状態にしたいか）	緊急輸送道路と交差する鉄道施設の耐震補強及び老朽化施設の長寿命化対策を実施し、災害発生時における緊急応急活動の機能を確保するとともに、鉄道の安全運行及び鉄道利用者の安全確保を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
① 改良済延長（ＪＲ栗林高架）		m	0	0	3,673	3,744	0
②							

【事業の成果】

成果指標①	成果指標名 (どのような成果が得られたか)		単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
	長寿命化率（事業費ベース）（累計）		%	目標値	0	0	97	100	100	
				実績値	0	0	97			
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）									
	栗林架道橋（JR）の高欄改良 L = 4 1 4 mの施工が完了し、目標どおり長寿命化が進捗した。		(目標達成度) 100.0%							
(得点) 35点										
成果指標②	成果指標名 (どのような成果が得られたか)		単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
				目標値						
				実績値						
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）									
			(目標達成度)							
(得点)										

	単位	R 4 (決算)	R 5 (決算)	R 6 (決算)	R 7 (予算)	
トータルコスト	[千円]	34,208	34,642	33,425	10,646	
	(事業費)	[千円]	32,112	32,309	32,113	9,334
	(職員人件費)	[千円]	2,096	2,333	1,312	1,312

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	鉄道施設総合安全対策事業費補助金（老朽化対策事業） 高欄改良　L＝4 1 4 m	3 2， 1 1 3 千円	総額	32,113	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	24,000
				他	0
			一般財源	8,113	
令和 7 年度	鉄道施設総合安全対策事業費補助金（老朽化対策事業） 高欄改良　L＝7 1 m	9， 3 3 4 千円	総額	9,334	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	4,500
				他	0
			一般財源	4,834	

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結び付くか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%～100%)	A	総合点 (率)	100 / 100 (100%)	今後の方向性	継続
	B (60%～79%)					
	C (0%～59%)					
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）						
耐震対策事業については、平成28年度に目標を達成し、事業が完了した。長寿命化対策事業は、高欄L=414mの改良実施によって予定どおり事業が進捗した。引き続き円滑な事業進捗による早期の事業完了が望まれる。						
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入）						
鉄道事業者が取り組む長寿命化対策に、引き続き国・県と連携して支援し、早期の事業完了を促す。						

令和 年度（ 6年度決算分） 高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全・安心に暮らせるまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	暮らしを支える生活環境の向上		課(室)名	都市計画課
	施策	景観形成の推進		電話番号	087-839-2455
	取組方針	景観の保全と創出		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	美しいまちづくり推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	「美しいまちづくり基本計画」に掲げる目標や方針の実現のため、平成24年3月に策定した景観法に基づく「景観計画」を踏まえ、景観形成に大きな影響を及ぼす建築物等に対する規制・誘導に取り組むほか、屋外広告物の規制・誘導内容を見直し、良好な景観の保全・形成・創出や清楚で緑豊かなまちの環境美化など、地域に即した都市空間を創出する。					
年度概要	①美しいまちづくり・景観審議会（2回） ②まちづくりアドバイザー派遣費等 ③景観形成助成金 ④景観計画改定業務委託料 ⑤その他					
重点取組事業	重点取組	市長マニフェスト	7-⑪	関連根拠法令	景観法、屋外広告物法、都市計画法など	

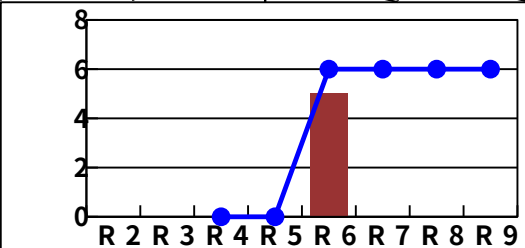
【事業の目的】

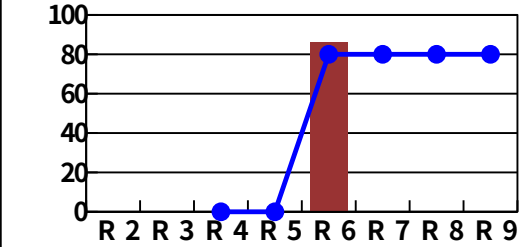
対象（何を）	高松市全域
意図（どのような状態にしたいか）	高松市全域において、地域に即した美しいまちづくりを推進し、誰もが暮らしたい訪れたいと感じる美しいまちを創出する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
①	美しいまちづくりアドバイザー制度活用回数	回	0	0	12	14	14
②							

【事業の成果】

成果指標①	成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
	景観形成重点地区数（累計）	地区数	目標値	0	0	6	6	6	
			実績値	0	0	5			
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	平成28年4月1日の計画改定により、景観形成重点地区数が5地区となり、現在、目標値である6地区の達成に向けて、検討を進めている。								
				(目標達成度) 83.3%					
				(得点) 29点					

成果指標②	成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
	景観条例に基づく事前協議申出件数	件	目標値	0	0	80	80	80	
			実績値	0	0	86			
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	事前協議申出件数が86件あり、目標とする件数を達成することができた。								
				(目標達成度) 107.5%					
				(得点) 35点					

	単位	R 4 (決算)	R 5 (決算)	R 6 (決算)	R 7 (予算)
トータルコスト	[千円]	19,470	53,095	30,735	36,813
	(事業費)	3,005	34,127	9,119	13,653
	(職員人件費)	16,465	18,968	21,616	23,160

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	①美しいまちづくり・景観審議会（2回） ②まちづくりアドバイザー派遣費等 ③景観形成助成金 ④景観計画改定業務委託料 ⑤既存不適格広告物改修等補助金（R5繰越） ⑥その他	①130千円 ②229千円 ③0千円 ④4,940千円 ⑤3,364千円 ⑥456千円	総額	9,119	
			特定財源	国	2,470
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	6,649	
			令和 7 年度	①美しいまちづくり・景観審議会（2回） ②まちづくりアドバイザー派遣費等 ③景観形成助成金 ④景観計画改定業務委託料 ⑤その他	①132千円 ②229千円 ③3,000千円 ④9,520千円 ⑤772千円
特定財源	国	5,760			
	県	0			
	市債	0			
	他	0			
一般財源	7,893				

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結び付くか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%～100%)	A	総合点 (率)	86 / 100 (86%)	今後の方向性	継続
	B (60%～79%)					
	C (0%～59%)					
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）						
現在、高松市景観計画改定に伴い景観形成重点地区の追加を検討しており、目標値である6地区の達成に向けて、検討を進めている。 また、景観条例に基づく事前協議申出件数は目標を達成しており、引き続き、一定規模以上の建築物等に対して指導・助言を行うことなどにより、良好な景観形成を誘導する。						
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入）						
美しいまちづくりの実現に向けて、市と市民・事業者が適正な役割分担の下に、これら三者が一体となって、地域の魅力や特性を生かしたまちづくりを進めていく必要があることから、美しいまちづくりアドバイザーを活用しながら、良好な都市景観の形成を推進する。						

令和 年度（ 6年度決算分） 高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全・安心に暮らせるまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	暮らしを支える生活環境の向上		課(室)名	都市計画課
	施策	景観形成の推進		電話番号	087-839-2455
	取組方針	景観の保全と創出		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	屋外広告物対策事業			

【事業全体概要】

事業概要	屋外広告物の適正化については、平成26年度の「屋外広告物条例」改正に伴い、「既存不適格」広告物が発生しており、その改修について、補助金を交付する等、是正に取り組んでいる。 「違反広告物」となった令和6年度においても、広告主への周知や管理者からの相談対応等により、同程度の件数が是正されており、引き続き、その是正に取り組んで行く。				
年度概要	①屋外広告物講習会開催（1回） ②屋外広告物簡易除却 ③屋外広告物管理システム ④その他				
重点取組事業		市長マニフェスト	7-⑪	関連根拠法令	屋外広告物法、屋外広告物条例

【事業の目的】

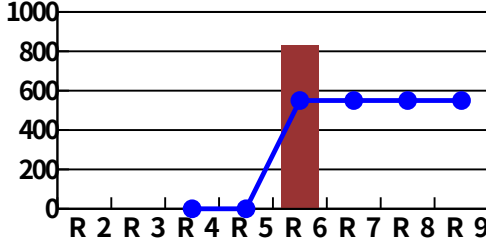
対象（何を）	高松市全域
意図（どのような状態にしたいか）	市全域における屋外広告物を適正に管理し、良好な都市景観を形成する。

【事業の活動】

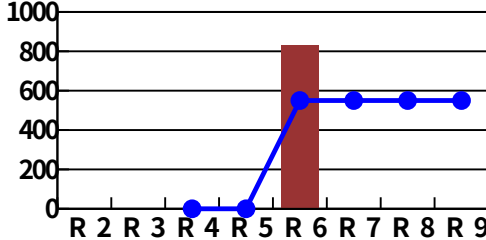
活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
① 是正指導区域数		区域	0	0	0	1	1
②							

【事業の成果】

成果指標①

成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
屋外広告物許可申請受理件数	件	目標値	0	0	550	550	550
		実績値	0	0	830		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
屋外広告物許可申請受理件数が830件となり、目標を上回った。		(目標達成度) 150.9%					
		(得点) 35点					

成果指標②

成果指標名 (どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
		(目標達成度)					
		(得点)					

令和 年度（ 6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	都市機能と自然が調和し、快適さと利便性を兼ね備えたまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	機能性の高い都市空間の形成		課(室)名	都市計画課
	施策	コンパクトシティの推進		電話番号	087-839-2455
	取組方針	計画的な土地利用の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	都市構造再構築事業			

【事業全体概要】

事業概要	平成30年4月に改定した多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画に基づき、集約拠点への都市機能の集積と市街地の拡大抑制による、コンパクトで持続可能な都市構造「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指す。				
年度概要	① コンパクト・エコシティ推進懇談会等委員報酬 ② コンパクト・エコシティ推進懇談会等関連旅費 ③ コンパクトなまちづくり推進協議会総会年会費 ④ 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定検討等業務委託				
重点取組事業	重点取組	市長マニフェスト	6-10	関連根拠法令	都市計画法、都市再生特別措置法など

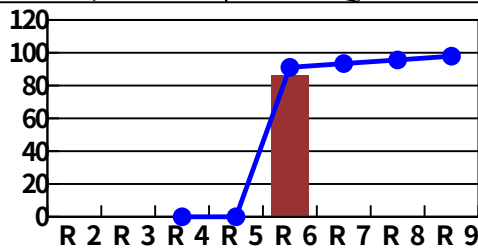
【事業の目的】

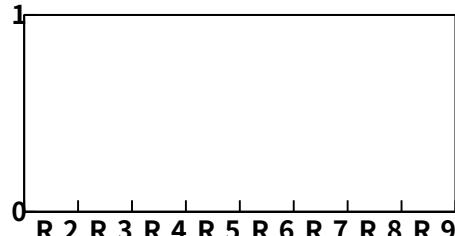
対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	人口減少・超高齢社会を見据え、30年、50年後においても、活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるよう、集約拠点への都市機能の集積と市街地拡大を抑制し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
①	コンパクト・エコシティ推進計画に掲げる実施済施策数	事業	0	0	65	65	66
②							

【事業の成果】

成果指標①	成果指標名 (どのような成果が得られたか)		単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
	都市機能誘導区域内の誘導施設の立地率		%	目標値	0	0	91.1	93.4	95.6	
				実績値	0	0	86.5			
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）									
	都市機能誘導区域内の誘導施設の立地率について目標に到達していないため、計画の浸透に努める。		(目標達成度)		95.0%					
(得点)			33点							

成果指標②	成果指標名 (どのような成果が得られたか)		単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
				目標値						
				実績値						
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）									
			(目標達成度)							
(得点)										

	単位	R 4 (決算)	R 5 (決算)	R 6 (決算)	R 7 (予算)	
トータルコスト	[千円]	20,936	25,307	12,277	16,726	
	(事業費)	[千円]	9,485	11,909	3,476	7,925
	(職員人件費)	[千円]	11,451	13,398	8,801	8,801

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	① 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定検討等業務委託 ② コンパクト・エコシティ推進懇談会（1回） ③ コンパクトなまちづくり推進協議会総会職員旅費 ④ コンパクトなまちづくり推進協議会総会年会費	① 2,940千円 ② 271千円 ③ 235千円 ④ 30千円	総額	3,476	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	3,476	
令和 7 年度	① コンパクト・エコシティ推進懇談会等委員報酬 ② コンパクト・エコシティ推進懇談会等関連旅費 ③ コンパクトなまちづくり推進協議会総会年会費 ④ 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定検討等業務委託	① 405千円 ② 519千円 ③ 30千円 ④ 6,971千円	総額	7,925	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	7,925	

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結び付くか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%～100%)	A	総合点 (率)	96 / 100 (96%)	今後の方向性	継続
	B (60%～79%)					
	C (0%～59%)					
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）						
人口減少・超高齢社会を見据え、30年、50年後においても、活力を失わず、市民がいきいきと暮らせるよう、集約拠点への都市機能の集積と市街地拡大を抑制し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めるため、令和6年3月に策定された、第7期高松市総合計画等を踏まえ、都市計画マスタープラン及び関連計画の見直しを行った。						
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入）						
今後とも、立地適正化計画やコンパクト・エコシティ推進計画に基づき、人口減少・超高齢社会を見据え、30年後、50年後においても活力を失わず市民がいきいきと暮らせるコンパクトで持続可能なまちづくりを実現するために継続して事業を推進していく。						

令和 年度（ 6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	都市機能と自然が調和し、快適さと利便性を兼ね備えたまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	機能性の高い都市空間の形成		課(室)名	都市計画課
	施策	中心市街地の活性化		電話番号	087-839-2455
	取組方針	誘客力と回遊性の向上		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	ウォーカブルシティ推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	当該事業は、中心市街地を取り巻く環境の変化に対応し、「にぎわいと活力ある」まちづくりや、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを目指し、高松市中心市街地活性化基本計画や、サポート高松地区都市再生整備計画に基づき、ハード・ソフト両面から各種施策・事業に取り組んでいる。				
年度概要	①サポート高松地区におけるプロムナード化等の整備 ②市街地再開発事業（D E 街区）に対する補助金交付 ③ “ ” （G 街区）償還金 ④第 4 期中心市街地活性化基本計画推進				
重点取組事業	重点取組	市長マニフェスト	2-④	関連根拠法令	中心市街地の活性化に関する法律など

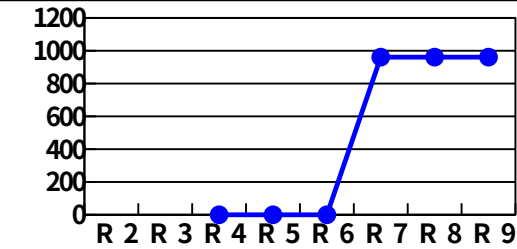
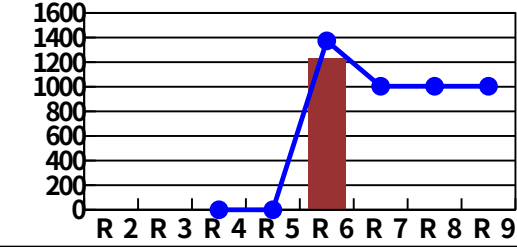
【事業の目的】

対象（何を）	中心市街地活性化基本計画の対象となる地区
意図（どのような状態にしたいか）	サポートエリアや中央商店街等を含む中心市街地において、多様な機能が集積し、居心地が良く、歩きたくなるようなまちを目指して、県立アリーナ周辺の環境整備や丸亀町 D E 街区の市街地再開発等に取り組む。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
①	第 3、4 基本計画掲載事業のうち完了又は実施中の事業	事業	0	0	43	55	55
②							

【事業の成果】

成果指標①	成果指標名 （どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	中心市街地内の宿泊者数	千人	目標値	0	0	0	961	961
			実績値	0	0	0		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
成果指標②	成果指標名 （どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	中心市街地の社会動態	人	目標値	0	0	1,373	1,004	1,004
			実績値	0	0	1,231		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	令和 7 年度を始期とする第 4 期中心市街地活性化基本計画に基づく成果指標であるため、令和 6 年度の目標値は設定できない。			(目標達成度)				
				(得点)				
	令和 6 年度の中心市街地の社会動態については、市全体の人口が減少傾向にあるなかでも、前年の 8 4 8 人から 3 8 3 人増加し、中心市街地の社会動態は増加傾向だが、目標値に対し達成度 8 9 . 7 % と目標達成はできなかった。			(目標達成度)	89.7%			
				(得点)	31点			

	単位	R 4 (決算)	R 5 (決算)	R 6 (決算)	R 7 (予算)
トータルコスト	[千円]	0	0	361,217	344,155
(事業費)	[千円]	0	0	306,868	286,718
(職員人件費)	[千円]	0	0	54,349	57,437

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	①サンポート高松地区におけるプロムナード化等の整備 ②市街地再開発事業（D E 街区）に対する補助金交付 ③〃（G 街区）償還金 ④第 4 期中心市街地活性化基本計画策定等	① 2 3 9 , 4 9 4 千円 ② 8 0 千円 ③ 3 2 , 2 5 8 千円 ④ 3 5 , 0 3 6 千円	総額	306,868	
			特定財源	国	5,760
				県	0
				市債	202,800
				他	32,798
			一般財源	65,510	
令和 7 年度	①サンポート高松地区におけるプロムナード化等の整備 ②市街地再開発事業（D E 街区）に対する補助金交付 ③〃（G 街区）償還金 ④第 4 期中心市街地活性化基本計画推進	① 1 9 9 , 0 8 8 千円 ② 4 6 , 5 6 8 千円 ③ 3 2 , 2 5 8 千円 ④ 8 , 8 0 4 千円	総額	286,718	
			特定財源	国	47,423
				県	35,228
				市債	81,900
				他	32,798
			一般財源	89,369	

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結び付くか。	5	一部結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%～100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	継続
	B (60%～79%)					
	C (0%～59%)					
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）						
令和7年4月に策定した第4期中心市街地活性化計画に基づく各種施策・事業の進行管理を行い中心市街地の魅力を向上させることにより回遊・滞在にまちのにぎわいを向上させる必要がある。また、香川県立アリーナや大学、外資系ホテル等、様々な施設整備が進むサンポートエリアにおいて、にぎわいを創出しつつ一帯的なエリアマネジメントを効率よく行う必要がある。						
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入）						
居心地が良く、歩きたくなるような街づくりの推進に向け、サンポートエリアや中央商店街等の中心市街地において、官民連携による公共空間のエリアマネジメントを効率的に行う必要があるため、「公共空間利活用ガイドライン」を策定する。						

令和 年度（ 6年度決算分） 高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	都市機能と自然が調和し、快適さと利便性を兼ね備えたまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	交流・連携を支える都市交通の充実		課(室)名	都市計画課
	施策	地域交通ネットワークの充実		電話番号	087-839-2455
	取組方針	公共交通ネットワークの再構築		事業期間	令和6年度～令和13年度
	事務事業	公共交通維持改善事業（都市計画課分）			

【事業全体概要】

事業概要	公共交通を維持し、良好な交通環境を確保するため、鉄道事業者が実施するバリアフリー化事業費の一部を支援する。				
年度概要	公共交通旅客施設バリアフリー化整備事業費補助金 ① ことでん仏生山駅 ② ことでん太田駅				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	鉄道施設総合安全対策事業費補助金交付要綱

【事業の目的】

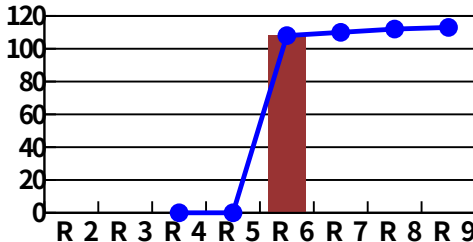
対象（何を）	鉄道事業者（琴電・ＪＲ）が管理する施設
意図（どのような状態にしたいか）	鉄道事業者（琴電・ＪＲ）が実施する駅施設のバリアフリー化（スロープ・点字ブロック・手摺・多目的トイレ等の設置）の推進を目的とし、補助金を交付する。

【事業の活動】

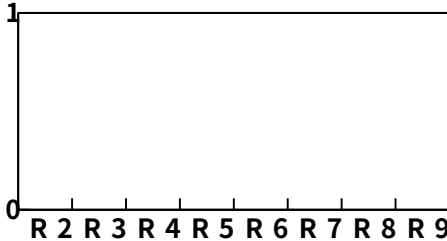
活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）		単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
①	補助金の交付件数	件	0	0	2	2	1
②							

【事業の成果】

成果指標①

成果指標名 (どのような成果が得られたか)		単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
バリアフリー施設数（累計）		施設	目標値	0	0	108	110	112
			実績値	0	0	108		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
令和6年度は、JR屋島駅に点状ブロック、片原町駅に音声案内システムを設置設置し、目標どおりバリアフリー化が進捗した。		(目標達成度)		100.0%				
		(得点)		35点				

成果指標②

成果指標名 (どのような成果が得られたか)		単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値					
			実績値					
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
		(目標達成度)						
		(得点)						

【コストの推移】

	単位	R 4 (決算)	R 5 (決算)	R 6 (決算)	R 7 (予算)
トータルコスト	[千円]	0	9,533	7,965	11,312
(事業費)	[千円]	0	7,200	6,653	10,000
(職員人件費)	[千円]	0	2,333	1,312	1,312

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	公共交通旅客施設バリアフリー化整備事業費補助金 ① JR屋島駅 ② ことでん片原町駅	6, 6 5 3 千円	総額	6,653	
			特定財源	国	0
				県	2,786
				市債	2,000
				他	0
			一般財源	1,867	
令和 7 年度	公共交通旅客施設バリアフリー化整備事業費補助金 ① ことでん仏生山駅 ② ことでん太田駅	① 5, 0 0 0 千円 ② 5, 0 0 0 千円	総額	10,000	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	10,000	

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結び付くか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%～100%)	A	総合点 (率)	100 / 100 (100%)	今後の方向性	継続
	B (60%～79%)					
	C (0%～59%)					
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）						
新型コロナウイルス感染症が長期化した影響を受け、事業主体となる鉄道事業者の経営状況が悪化し、バリアフリー化に要する経費の捻出が課題となっており、事業者とともに、乗降客数等から整備の必要性、優先順位を見定め、法に基づき、国、県、市が適切に財政的な支援を行うことで、遅滞なく事業の推進を図る。						
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入）						
駅施設等のバリアフリー化を引き続き推進し、公共交通利用者の利便性向上を図る。						